



ボルネオの森に響く音・音・音

写真1



写真3



写真2



写真4



写真5



写真7



写真6



写真9

地上でもっとも生物多様性の高い地域の一つであるボルネオの熱帯雨林（写真1）。ボルネオの熱帯雨林の朝は、そこに暮らす生きものたちのさまざまな歌声からはじまる。地上60メートルの林冠から「ンゴオック、ンゴオック」と濁った歌声が聞こえてくるのは、巨大なクチバシが特徴的なツノサイチョウ。最後には「ンガン、ンガン」と騒々しく鳴きながら、ねぐらから朝の食事へと飛んでいく（写真2）。「ホーッ、ホーッ」と森の中に響き渡るのは、ミユラーテナガザルのデュエットソング。特徴的な長い腕を器用に使って木々の間を移動していく（写真3）。遠くから「キエッ、キエッ、ケッケッケ」という甲高い鳴き声とともに飛んでくるのは、カタカササギサイチョウ（写真4）。数羽の家族単位で騒々しく移動しながら、大好きなイチジクを探しに飛んでいく。

まだ薄暗い森の中、じっとしているとかすかな物音が近づいてくる。音の方向に目を凝らすとウサギ大の茶色のジャワマメジカが歩いてくる（写真5）。こちらの気配に気がつくとい瞬、立ち止まり、来た時と同じようにピョコピョコと遠ざかっていく。ペキッ、ペキッと頭上から聞こえてくる枝が折れる音。見上げると茶色い大きな塊がゆっくりと動いている。森の人と呼ばれるオランウータン（写真6）。同じ霊長類でも枝を飛びうつる音が騒々しいのは、クリイロリーフモンキーの家族（写真7）。その長い尻尾についぶら下がりたくなる衝動に駆られてしまう。ガサッと林床を駆け抜ける音の後、バシャッと水に飛び込む大きな音。全長1メートルを超える大型のトカゲ、ミズオオトカゲが長い尻尾をゆったりと動かしながら、悠々と川を渡っていく（写真8）。

森の中で聞こえてくるのは、動物たちの音ばかりではない。ヒューッと甲高い風を切る音と共に目の前に落ちてきたのは、果物の王様とも呼ばれるドリアンの果実（写真9）。トゲトゲな果実が地上30メートルもの高さから落ちてくるのだから、森の中を歩く時には頭上にも注意が必要だ。上空を風が吹いた後、クルクルとゆっくりまわりながら落ちてくるのは、東南アジアの熱帯雨林を代表するフタバガキの仲間の果実（写真10）。



写真8



写真10

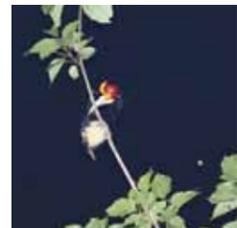


写真11



写真12



写真13



写真14



写真15



写真16



写真17

熱帯雨林の夜。日中、林冠を飛び回っていた鳥たちは、木々の間でひっそりと休んでいる（写真11、12）。夜の森で音色を奏でる主役はカプトシロアゴガエル（写真13）やヌマガエルの一種（写真14）。宿舎の明かりにやってきたのは、いかにも音が出そうなバイオリンムシ（写真15）。ブーンという低い羽音で飛んできたのは、モーレンキャンプオオカブト（写真16）。黒光りする体がカッコイイ。森からホーオーとサイレンのようなセイランの鳴き声が響いてくる（写真17）。夜になってもボルネオの森はにぎやかだ。

北村俊平（自然・環境マネジメント研究部）

【写真提供】
安間繁樹（11,17）
高橋 晃（1,3,4,6,7,8,10,12,13,16）
橋本佳明（15）
北村俊平（5,9）
八尾滋樹（2）
西岡敬三（14）